

「支える生徒指導」を考える

草津市教育委員会事務局

児童生徒支援課長 北村 将

日頃は、草津市の教育全般にわたり格別のご理解・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。また、それぞれのお立場で、児童生徒の支援に係る様々な業務等に対しご尽力いただき、大変感謝しております。

私は、生徒指導に関わってまだ10数年です。しかしその間、生徒指導提要（以下、「提要」）が全面改訂されるほど、この10数年でこれまでの生徒指導が大きく変化していることは、みなさんご承知と思います。私自身、提要の改訂の年に本職に着任したことは、何かの縁と感じざるを得ません。

最近読んだ本の中に、新井 肇 先生（関西外国語大学 教授）の著書「支える生徒指導の始め方」があります。その中で、生徒指導に求められる、以下の4つの問いが述べられています。

1つ目は、現在の「変動社会」に対応する力を子どもたちが身につけるために、生徒指導ができることは何か。2つ目は、発達障害やLGBTQ、外国籍など、多様な背景を持つ子どもたちの増加により、同化主義でなく多文化主義に立ち、排除でなく包摂をめざす生徒指導をどう進めるか。3つ目は、「いじめ防止対策推進法」「自殺対策基本法」「教育機会確保法」「こども基本法」など、生徒指導に関連する法の理解に基づいた生徒指導をどう実践するのか。4つ目は、困難な生徒指導上の課題が山積する中で、教職員の多忙化を解消するための「働き方改革」と生徒指導の充実を、どう両立させるのか。この4つです。まさしく、本課が今後の課題ととらえている内容とリンクしています。

この4つの問いの中に、「問題行動」「規範意識」といった、かつて生徒指導でよく用いられたキーワードが存在しません。つまり今日的な課題は、ここ10数年で本当に大きく変わったことがここからもわかります。したがって、教育を取り巻く今日的な課題を考えると、これからの「変動性」「不確実性」「複雑性」「曖昧性」な時代を生きていく子どもたちに、「子どもの最善の利益を第一に考え、安心・安全で、誰一人として取り残さない学びの環境（こどもまんなか社会）」を構築することがとても大切になります。そのためには、保護者や地域と連携しながら、まずは「目の前にいる子どもが我が子なら」との視点に立ち、自分事として取り組むことが必要です。「困った子」は「困っている子」です。「困っている子」を支える生徒指導であってほしいと思います。

最後に、先生方・その他職員のみなさま、「支える生徒指導」を行うためには、まずは支える側である、自分自身のメンタルケアが重要です。教職員の日々の業務は、心身に負担がかかることが多くなりがちです。そのため、適度な休養やメンタルヘルス、ストレスケアを行ってください。先生が笑顔で元気になれば、それが必ず子どもへの適切な支援につながります。「働き方改革」と生徒指導の充実を、どう両立させるのか。私自身も提要とともに、しばらくはこの問いの解を求める日々になりそうです。

（なお、本文中の「生徒指導」とは、「教育相談」分野を含む、広義の生徒指導をさしております。）



スキルアップ支援事業

第4回スキルアップ 意欲的な研究授業が次々に…

10月に入り、スキルアップ支援事業では、対象の先生方による研究授業を進めています。

対象の先生方は、日々教育の難しさと向き合いながらも、“New 草津型 AL”やこれから求められる教育の実現をめざし、それぞれの課題をご自身の“授業改善のめあて”に落とし込んで研究授業に臨んでくださっています。

その意欲的な姿は頼もしく、そこで見られる創意工夫、試行錯誤の経験はこれからの草津市の学校教育、草津市の子どもたちのために大変貴重なものになるでしょう。

なお、学校により、学年や教科の先生方、あるいは管理職の先生にも積極的に関わっていただくことで、対象の先生のスキルアップだけでなく、当該の学校全体の教育力、学校力の向上にもつながっていることも実感しています。



第2学年算数科『三角形と四角形』
子どもたちは、初めて正方形や長方形、直角三角形に触れ、それぞれの構成要素や特徴を理解していった後、それらの図形で敷き詰め模様を作っていました。
タブレットPCは、一人ひとりの敷き詰め模様が生み出す規則性や美しさ、広がりなどの共有を可能にし、そこからの新たな気づきを促してくれます。



第3学年国語科『はんで意見をまとめよう』…”話し合い活動”に関わる学びです。
子どもたちは、目的や話し合いの進め方、それぞれの役割を確かめ、互いの意見に関わらせながら班としての意見をまとめていきます。
手作りのモデル動画が有効に働き、この後は、ロイロノートの思考ツールが子どもたちの活動を助けてくれそうです。

ICTスキルアップ



//問題解決の手順を考える//

小学校4年算数科「アルゴリズム」

わり算の筆算は「たてる>かける>ひく>おろす」を繰り返します。学習ではScratchを使い、たし算の場合のプログラミングを考えます。「位の和 ≥ 10 」が真なら繰り上がりあり、偽なら繰り下がりなし。この手順の繰り返しです。

プロジェクトの操作性を改善しましたので、試してみてください。

(学習教材リンク草津市 Scratch プロジェクトから)



第2回草津市教職員自己啓発講座（図画工作科）

秋の作品展に向けて7 ～いきいきとした表現へ 導くために～

自己啓発講座

9月8日（金）老上小学校 教諭 山田 和美 さん

作品づくりを行うときの指導者のポイントは？

子どもたちの発達段階をふまえて… 見本の絵からアドバイスいただきました。

4・5歳

実物の大きさに関わらず、自分が見たもの、中心のものをのびのびと！

1年

中心のものを目立たせる（周りに空間を残す、白を効果的に使う）

2年

中心に対して、周りに細かいものをかく（中心が紙の真ん中とは限らない）

見たままをかくのではなく、思いをのせて（本物の色と異なってよい）

3年

絵の具（混色）の指導に力を入れる。場所によってまわりに細かいものを描く。

子どもと考える（海なら岩、昆布など 空なら鳥、雲など 森なら木、りすなど）

4年

1色で仕上げず、いくつかの色を入れていく（葉なら緑、黄緑、黄色など）

人物が中心の場合、タブレットで撮影して見本を二次元にするとよい

5年

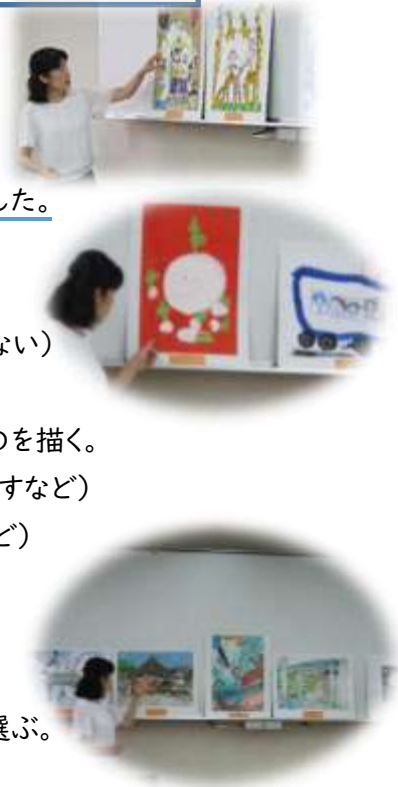
奥行きを出すのに、黒を効果的に使う。黒の線は絵が引き締まる。

緻密に、丁寧に、作品づくりの中で根気強さも培っていきたい

6年

今まで（6年間）やってきた経験から、自分の思いに合わせて技法を選ぶ。

自分のイメージを表現する作品（抽象的なもの）に挑戦してもよい。



<「お話の絵」に取り組むときのポイント>

- 場面がいくつも選べる本がおススメ。子どもたちの想像がいっぱい広げられるものをぜひ！
- 指導者が好きな本や気に入った本、子どもたちとたくさん話したくなる本を！
- お話の続きを考えて描いたり、こうなるとより楽しいかもと想像を膨らませたりして描いてもよい。
- 本を読み終えたら、子どもたちとお話の内容についていっぱい話をする。
（いつ、どこで、誰が、どんなこと…はもちろん、「もし、自分が登場していたら…」と想像を広げる）
- お話に登場したものだけでなく、子どもたちの発想で新しい〇〇を登場させてもよい。
- 授業の最初（集中力の高いとき）に、中心となるものを描くのがベスト！
- 中心の1匹のみ、中心の一人のみは寂しいので、できればまわりに小さな仲間を増やしたい。
- まわりの絵に、自分を登場させてもよい。「中心のまわりで〇〇している自分」を描くなど。
- まわりに描くものは、その場所について子どもたちといっしょに考えていくとたくさん出てくる。
（「公園には何があるかな？」→「滑り台」「噴水」「鳥がいるかも」「ベンチにおじいさん」…）

他にも…

- ★ 塗るではなく塗り込む！（クレパスは白い部分が残らないくらいしっかり塗り込むと◎）
- ★ 混色は仲間の色で！（色を混ぜるときは似た色で混ぜるとキレイ！黄は他との相性◎）
- ★ 目は大事！（特に中心の生き物の目は、絵を物語るので、黒でしっかりはっきり！）
- ★ 評価は過程から読み取る！（描いた色や形に子どもの思いがどれだけのっているか。）

参加者の感想 満足度 ★★★★★…12名 ★★★★★…5名

- ・図工の作品づくりでは、いつも悩むので、具体的な指導のポイントを学べる機会を与えていただいてよかったです。
- ・「どんなものがあるかを考えよう」「仲間の色で混色しよう」「生きているものを増やそう」というように、次の図画工作科の授業で、実践できる指導のポイントを学ぶことができてよかったです。





自己啓発講座

今日の子どもの姿から、明日の体育の授業をつくる6

10月10日（火） 滋賀大学教育学部 准教授 山田 淳子さん



子どもの笑顔と声から成り立つ体育学習をめざして

理論（言葉による説明など）だけでなく、体感しながら学べる工夫を！

〈K・T・A〉

体（からだ）を動かして！ 友（とも）だちといっしょに！ 頭（あたま）で考える！

「走」の運動能力を高めるために運動遊びを仕組む！

- 例えば、スタートの姿勢や走り方の工夫について学ばせたいとき

ペアでじゃんけん ⇒ あいこでダッシュ

- ① ペアでじゃんけんをして、あいこになったら走り出す活動をする。
- ② どうすれば、もっと早くスタートできるかをペアで考え、活動させる。
- ③ 考えたことを全体で共有し、確かめる。
- ④ 走っているときの工夫についてペアで考え、また活動させる。
- ⑤ 考えたことを全体で共有し、確かめる。

このように、友だちと楽しく体を動かしながら頭で考えていくことで自然と走の動きを身につける。



- 例えば、リレーのカーブの走り方について考えさせたいとき

円になって浮遊スカーフのしっぽとり

- ① 浮遊スカーフをしっぽにして、全員で円になって座る。
- ② 順番に「1, 2, 3, 4, 5, 1, 2, 3, 4, 5, …」と各自の番号を決める。
- ③ 1の児童だけが立ち、残りの児童はそのまま座っておく。
- ④ 立っている児童は、合図で円の周りを走って前の児童のしっぽを追いかける。
- ⑤ 1の児童が元の場所に戻ったら、2の児童が④をする。（これを5の児童まで繰り返す。）

このように、円の周りを走ることで、カーブでは体を傾けると速く走れることに自然と気づかせたい。



他にも…

- ★あっち跳んでピョン！（リズムカルに運動を続ける遊び）
- ★宝をとって走って投げて！（楽しみながら持久力を高める運動遊び）
- ★負けたら逃げるゴム跳び走！（ハードル走につながる運動遊び）
- ★浮遊スカーフキャッチ！（短い距離を全速力で走る運動遊び。）



*浮遊スカーフは、身体機能を向上させるのに優れたもの！体育倉庫で探して活用してみてください！

タブレットは使うことが目的ではなく使った後が大事！

＜活動の動画を子どもたちが確認するとき、指導者はどうしていますか？＞

→できれば、確認しているペアやグループの中に入ってふさわしい声かけをしていきたい。ポイントや気づかせたい点に着目させるような声かけを！



参加者の感想 満足度 ★★★★★…5名 ★★★★★…1名

- ・子どもたちにとって、ただ走る、記録のために走るではなく、楽しい活動の中で自ら走りたいと思えるような活動をたくさん教えていただきました。授業でも子どもたちと楽しみながら活動したいです。
- ・今回のように場作りや遊びの中から自然と身につけさせたり、子どもたちが楽しいと思える活動を増やしたりして、運動が好きだと思える子どもたちを育てていきたいと思いました。
- ・学校の体育倉庫に眠っている教材教具をもっと活用していきたいです。

スクールソーシャルワーカー SSW恒松先生が語る シリーズ教育相談



消えないしんどさを抱えるFさん

Fさんは父、母、弟との4人家族で、小綺麗な一軒家で暮らしています。そのFさんは小2の2学期に突然学校に登校できなくなりました。理由を聞くと、「昇降口から教室に向かう廊下の角が怖い」と言います。その後も、「ざわざわした音が苦手」「窓から差し込む光が痛い」「写真撮影で楽しくもないのに『笑って!』と言われるのが嫌だった」など「本当にそれが原因?」と思う様なことをあげてきます。Fさんは学業に課題も見られず、友だちとのトラブルもなく穏やかに過ごしていました。父は優しく、母は専業主婦でママ友も多く、姉弟仲も良い。家庭環境に問題も見当たりません。



でも探っていくと、実はFさんが3歳の頃に母は前夫の激しいDVからFさんを連れて逃げてきた経緯がわかりました。その後、母は今の夫と再婚、ほどなく家を建て、Fさんは小学校横の幼稚園に転園してきたのでした。今は穏やかな生活を送っているFさんですが、夜に夢を見て大泣きすることや、突然、目の前が真っ暗になることがあると言います。



母も学校で出会う時は明るく振る舞っていますが、家では不安定になってパニック障害を起こすことが度々あり、薬が手放せないとのことでした。幼少期の過酷な体験の影響は否めませんでした。



根は几帳面で生真面目なFさん。一旦登校すると、皆に迷惑をかけることも遅れることも嫌で、頑張ってしまいます。カウンセラーからは「適度に力が抜ける環境が必要だ」とのアドバイスがありました。教育支援センターやフリースクールの利用も始め、少しずつ部分登校を試み、中学入学を機会に休まず登校できるようになりました。不安や恐れを口にすることも大きく減っていました。ただ、やはり中学校でも頑張り過ぎてしまい、中1の3学期には再度登校できなくなりました。でも、小学校での経験を活かし、すぐに教育支援センターとフリースクールの利用を再開して長期欠席に至らずに済みました。

高校は昼間定時制に進みました。「初めてこんなに長い期間続けて学校に行けている。」と喜んでいたのも束の間、高2の後半からは体調不良でまた欠席が増えて幾つかの単位を落としてしまいました。これまで彼女のしんどさに関しては幼少期のトラウマや母の不安定さに焦点が当たっていたのですが、ここでASD（自閉症スペクトラム障害）の診断を受けました。Fさんは「何とか3年で卒業したい」という強い思いを持っていました。でも、何人かの信頼できる人たちに相談し、応援やアドバイスを受けながら自分で納得して、焦らずに4年かけて卒業することに決めました。少しずつ「自分のペースで進むこと」が受け入れられるようになってきました。



卒業後の進路は「医療系専門学校」を選びました。自分の様にしんどい思いをしている人たちを支える仕事につきたいと思っています。





やまびこだより



10月のたびすけ DAY は、「土器づくり」に挑戦！

草津市歴史文化財課のみなさまの協力を得て、10月13日(金)は青地教室、10月16日(月)は上笠教室でそれぞれ土器づくりに挑戦しました。草津市内で出土した縄文・弥生時代の土器などの文化財について学んだあと、実際の粘土で、自分が作りたいと思う土器を制作しました。出来上がった子どもたちの作品は11月の展覧会に展示する予定ですので、ぜひ見に来てください。



やまびこ 秋の展覧会 ♪



日時：11月10日(金)～11月17日(金) ※土、日を除く
(17日は午前中まで)

場所：やまびこ青地教室、やまびこ上笠教室
なお、上笠教室は10日(金)のみ14:00まで、14日(火)は閉室です。

子どもたちのすてきな作品が並びます。どうかご覧になって芸術の秋を楽しんでください♪

まずは安心できる空間を！

やまびこ教育相談室へ

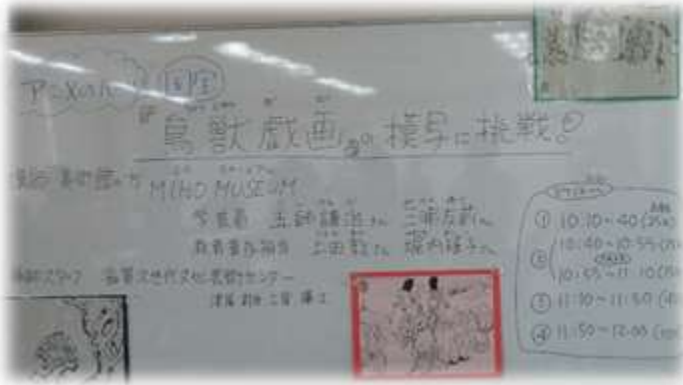
不登校の子どもたちの多くが、行けるものなら学校に行きたいと思っています。登校出来ない自分に対して罪悪感をもち、自己嫌悪にさいなまれている子どもがほとんどです。まずは重圧感を取り除いてあげることが先決だと思います。

やまびこ教育相談室では、子どもたちの面談や小集団の活動を実施しています。指導員は、子どもが自分の思いを表出できるように信頼関係を構築し、安心できる空間づくりに努めています。不登校や不登校傾向の子どもたちや保護者の方々にやまびこ教育相談室をご紹介ください。先生方からのご相談もお待ちしています。



湖南SSN(スクーリング・サポート・ネットワーク)ふれあい体験

湖南4市(栗東、守山、野洲、草津)の各教育支援センターに通う子どもたちや保護者、指導員の交流を深めることを目的としたSSN(スクーリング・サポート・ネットワーク)では、さまざまな交流活動を行っています。先日は、そのSSNのふれあい体験活動をやまびこ青地教室で実施いたしました。午前は、滋賀次世代文化芸術センターより講師の先生にお越しいただき、「鳥獣人物戯画の下敷きづくり」の活動を行い、午後からは、玉をスティックで転がして点数を競う「囲碁ボール」のゲームをしました。子どもたちは、いつもとは違うメンバーに最初は緊張していましたが、活動を通して少しずつ親しむことができました。今後も、引き続き交流を深めていきたいと思ひます。



開室から5か月が経ちました！ やまびこ上笠教室

やまびこ上笠教室は、5月の開室から5か月が経ちました。おかげさまで多くの教職員の皆様、保護者の皆様、子どもたちの知るところとなり、必要に応じてご利用いただけるようになりました。このように軌道に乗ることができたこと、関係の皆様へ感謝申し上げます。今後も引き続き、居場所を求める子どもたちの力になっていけるよう、保護者、学校はもちろん、関係機関等とも連携を図りながら進めてまいりたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



シリーズ 司書さんおすすめの絵本



『きょうのごはん』 加藤 休ミ／作 偕成社

毎日夕方になると、あちこちの家からいい匂いがただよってきます。今日はこの家から魚を焼く匂いがします。夕ご飯はさんまの塩焼きのようです。こんがり焼けていて、とってもおいしそう。隣の家からもまた、いい匂いがしてきました。この匂いは、カレーライスのように。さらにその隣の家からも…。

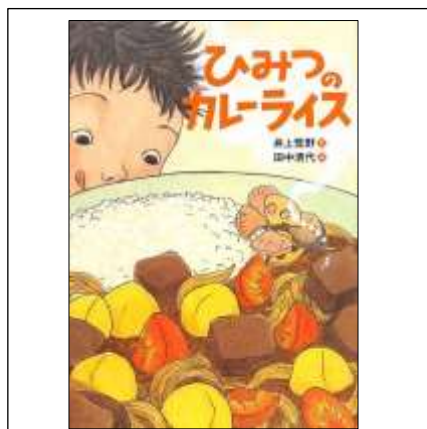
リアルな絵で描かれた夕ご飯はどの家もおいしそうで、見ているだけでお腹が空いてきます。



『ひみつのカレーライス』 井上 荒野／作 田中 清代／絵 アリス館

ある日、フミオがカレーライスを食べっていると、口の中で「かりっ」と音がしました。取り出してみると、それは小さな黒い粒でした。お父さんが調べてくれた本に、世にも珍しいカレーの種だと書いてありました。庭に埋めて呪文を歌い踊った次の日、カレーは芽を出しました。

自分もカレーライスを食べたときに入っているかもしれないというワクワク感や、フミオたちの踊る姿に、思わず笑いがこみ上げます。



『うさぎのにんじん』 なかがわ りえこ／ぶん やまわき ゆりこ／え ブッキング

うさぎが畑に種をまくと、りっぱな人参ができました。たくさん採れたので、他の動物たちと一緒に食べることにしました。みんなでひとくち食べたたん、おや？不思議なことに、うさぎさんもブタさんも、アヒルさんもゾウさんも、みんな人参色になってしまいました。

動物たちが美味しそうに人参を食べる様子は、人参嫌いの子どもに食べてみたいと思わせてくれそうです。また、「ごちそうさま」を言わない子には、挨拶をするきっかけとなるかもしれません。



読み聞かせなどに、ご活用ください

このシリーズは、市立図書館の司書さんのご協力を得て作成しています。

